

# 石川県能登半島地震復興支援ボランティア

～私達ができる事を探して～

関西福祉大学 萬代ゼミ

## ・ボランティアの背景

令和5年5月、石川県にて最大震度6強の地震があった。石川県全体での人的被害は比較的少なかったが、珠洲市では家屋の一部倒壊・全壊など住居被害があった。しかし、多くの人達の協力により復興が進んでいたため、特別養護老人ホーム第三長寿園を中心とする心のケアを学生15名・引率教員1名で行った。

## ・目的

現地での活動を通して地域の活性化を図り、今まで通りの笑顔と元気で溢れる生活を取り戻してもらい、被災前よりも強い住民同士のつながりを持ってもらうこと。

## ・活動内容

### 1, 現地活動/実施日令和5年8月7日(月)～8月10日(木)

今回の活動では珠洲市にある、社会福祉法人長寿会特別養護老人ホーム第三長寿園に協力してもらい、利用者と一緒に盆踊りやヨーヨー釣りを行った。加えて、この地震の影響で一部崩落した見附島をはじめ、珠洲市の観光地を取り上げ観光マップ作製も実施した。

2、現地活動以外にも募金活動や、災害復興支援ボランティアの事・現地活動で学んだ事を、本学のコミュニティアワー報告会と兵庫県要約筆記サークル連絡協議会東播・西播地域交流学习会で話をさせていただいた。

## 活動の様子



## ・成果

第三長寿園の方に対話や活動を通して喜んでいただき、日々の地域住民や人とのつながりが、災害発生時に強い力になることを学んだ。そして、現地での交流を通して人との交流が前を向く原動力になり、元気で明るいエネルギーは被災者に伝染することを体感した。加えて、地震発生から3か月も経っているにもかかわらず、修繕されていない箇所や現地の人に聞いて初めて知る困難などメディアで報道されていることは、ごく一部のものであり実際に見るのとは大きく違うと知った。さらに、災害発生時の情報の整理・伝え方には、もっと配慮する必要があることが分かった。特に聴覚障害者は、警報音や速報などが聞こえないので避難が遅くなる可能性が高いと気付いた。

## ・課題

現地活動で地域住民に直接介入する関わりが施設以外であまりできなかったこと。また、私たちが現地で学んだ事を得た知識や情報を外部に伝える活動が少なかったことが課題である。